

農業振興部門
全国水土里ネット会長賞

佐賀県
小鹿地区

農事組合法人 小鹿ファーム

大型機械導入を機に営農組織を法人化
佐賀県第1号として地域の先進事例に

基盤整備事業を契機として
農事組合法人を設立

位置図



法人の加工部門で商品化
(こじかの白雪みそ)

業化が進み、労働コストは大きく軽減しました。さらには水稻の鉄コーティング直播栽培に取り組み、田植え作業の短縮や田植え前の耕起作業の分散化。直播栽培導入前に比べ

て、労働力は11%削減されました。
米・麦・大豆の作業効率化により余剰労働力が生まれ、キャベツや玉ねぎ、白菜など高収益作物の導入も加速。新たな販路の開拓にも力を入れ、キャベツ、玉ねぎはJAの野菜カット工場と契約栽培を行なっています。

また、小鹿ファームの加工部門として、「パンビ乙女会」を発足。味噌や高菜漬けなど加工を開始し、農産物直売所や近隣のカフェで販売しています。加工品は神埼市内の学校給食でも使われていて、平成30年度は味噌350kg、高菜漬け150kgを提供しました。

今後、法人化の先進事例として、さらなる販売額の向上と安定的な経営を目指します。



米・麦・大豆の土地利用型農業を展開（大豆の栽培状況）

佐賀県の東部に位置する神埼市。その南部に位置する小鹿地区は、水田が広がる農業地域です。従来この地区は用水の確保や排水不良に悩まされてきたため、昭和から平成にかけて国営土地改良事業やほ場整備事業などを実施し、用水の安定確保や排水機能の改良、農地の汎用化を進めてきました。これにより、米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業が発展。また、キャベツや玉ねぎなど様々な農作物が作付けできるようになりました。

と、再び排水不良が起るようになり、平成24年から25年にかけて、農業基盤整備促進事業を実施。暗渠排水の工事を行い、ほ場の排水機能が回復しました。その結果、麦や大豆の収量や品質が向上したのももちろん、地域に様々な波及効果をもたらされました。なかでも最大のものは、法人化への機運の高まりです。もともと小鹿地区では、農業者の減少や高齢化への危機感が高く、機械費の削減や農業経営の安定を図るために集落営農組織を設立し、農地の集積を進め基盤整備事業によって大型機械の導入が進むと、法人への転換を望む声が高まりました。そこで、地区の農業者が集まって法人化のための研究会などを活発に行い、集落全体の意向を確認しながら検討を続け、平成26年1月に農事組合法人「小鹿ファーム」を設立しました。「集落の農地はみんなを守る」をスローガンとするこの法人は、集落営農組織から法人化した佐賀県第1号の事例となります。

効率化による余剰労働力で
高収益作物栽培や6次産業化を推進

法人化したことで、農地の計画的な利用や作業の分

事業概要

事業主体	神埼市		
事業名	農業基盤整備促進事業		
工期	平成24年～平成25年		
受益面積	728.4ha	受益戸数	16戸
標準区画規模	事業実施前 30a →	完了後 30a	
1ha以上の区画合計面積	-		
主要工事	暗渠排水、用排水路工、農道舗装		
関係土地改良区	神埼市土地改良区		
関係市町村	神埼市		